

研究課題名	集中治療室における外科的気管切開術と比較した hybrid 法による気管切開術の有用性の検討
研究の意義・目的	集中治療室における気管切開術は集中治療医が行う頻度の高い処置ではありますが、どの術式が一番有用性かについて一定の見解がありません。近年、hybrid 法（気管が見えるところまで外科的に手術を行なった上で、直接気管を切る方法ではなく気管切開穿刺キットを用いて気管切開を行う方法）による気管切開術が有用ではないかといった報告が散見されています。当科でも複数の術式で気管切開を行っておりそれらと比較検討することで、この検討が今後の集中治療室での気管切開術の安全性の向上につながると考えています。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2025 年 12 月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2022 年 4 月~2024 年 6 月の間に大阪公立大学医学部附属病院救命救急センターに入院中で気管切開術を受けた患者様
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ① 患者情報（性別、年齢、BMI、気管切開を受けた理由となる診断） ② 手術情報（合併症の、手術時間、執刀医、気管カニューレ（気管切開時に気管に挿入し留置するチューブ）の太さ）
試料・情報を利用する者の範囲および管理について責任を有する者の研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科救急医学のみで行います。 【研究責任者】松尾 健志
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 救命救急センター 担当者氏名：松尾 健志 電話番号：(080) 5324-7696 メールアドレス：q21540d@omu.ac.jp